

平成 25 年度 児童・生徒 平和に関する図画・作文コンクール

審査講評 図画の部

今回で6回目となる本コンクールへの図画の応募点数は、891点でした。

審査は、これまで同様、次のことを基準に進めました。本コンクールの主旨である“戦争と平和について考えるとともに平和を尊ぶ心を育む機会とする”と、内容については、“沖縄戦について直接体験者から聞いたり、映画を見たり、本などを読んで感じたことを自由に描く”などに合致した作品であるか、小学校低学年においては“身近な生活の中での平和や共生、人権教育の視点による作品”になっているか、などです。そして、それを表現するための形や色、画面構成が発達段階に応じた表現であるかなどです。

ちなみに形とは人物や植物などの描き方であり、色とはその形を生かすための色づかいのこと、画面構成とは画用紙全体の色や形のバランスや組合せです。

小・中学校とも本コンクールの主旨などをよく理解し、それぞれの校種、学年とも発達段階に応じた形や色、画面構成など表現力のよさ、感性の豊かさが感じられる作品が多かった。文字数の都合上、審査講評は、下の村長賞2点にさせていただきます。

小学校の部 村長賞：上地瑠奈^{る な}（古堅小学校3年）「みんなでたのしくおしえあう」

斜^{なな}めや横^{よこ}からではなく真正面^{まじょうめん}から描^{えが}く方法を正面性^{ほうほう}、ひろげた感じ^{しょうめんせい}で描くことを展開描法^{てんかいびようほう}とといいます。低学年^{ていがくねん}の子どもによく見られる表現方法^{ひょうげん}で、子どもらしくすなおでのびのびした感じを与えます。顔・体・手・机や本もそのような表現になっていますね。この作品のいいところは、前列^{ぜんれつ}の子と後列^{こうれつ}の子に変化を付け、わずかではあるがおくゆき感をだしていることと、服装^{ふくそう}にも変化^{へんか}をつけていること、そして画面^{きま}いっぱい大きく描いていることです。クレヨンでのりんかく線も気持ちよく描かれていますね。

中学校の部 村長賞：儀保みなみ^{ぎせい}（読谷中学校3年）「争いと犠牲」

画面中央^{すがいこつ}に頭蓋骨^だを胸に抱いた悲しそうな少女、その周囲には慰霊の日頃咲くゲットウの花、悲しい思い出を象徴する彼岸花^{ひがんばな}、そして平和を願う折り鶴等、一つひとつが丁寧^{ていねい}に描かれ存在感を与えている。しゃれこうべの目からも涙らしきものが流れ出ています。戦争で亡くなった人の悔し涙でしょうか。画面上部には銃が描かれ、その下には暗雲とともに黒く得体の知れないモノがダラーと流れている。右側の青い空と対峙させることにより戦争の忌まわしさが伝わってきます。描写力、内容ともに優れた作品です。

出品してくれた多くの児童生徒のみなさんありがとうございました。

ご多用の中、本コンクールにご尽力なされた各学校の先生方、誠にありがとうございました。